

【第一部「夢みる校長先生」について】

文部科学省選定映画『夢みる小学校』の公立学校 Ver です。

今作に出演する校長先生は、すべて公立学校の校長先生たちです。

増え続ける子どもたちの不登校数は、30 万人ともいわれています。

子どもたちの人権は守られているのでしょうか？

この映画には「子どもが行きたくなる公立学校」のビジョンが満載です。

通知表をなくした校長

國分 一哉

神奈川県 茅ヶ崎市立 香川小学校校長

2020年度の学習指導要領の改訂をうけて
「子どものためになる評価方法」を
職員のみなさんと話し合いました。

私自身も以前から通知表の数字だけで
子ども同士が比べ合うことを無くしたい
という気持ちがありました。
香川小学校では「通知表」という手段ではなく
保護者とともに子どもの成長を見守りたい、
と考えたのです。
その責任はすべて私がとると、伝えました。

競争が激しい社会にあって
「それは理想論」と言われる保護者の方もいます。
「理想を求めるのが学校ではないでしょうか。」
と私はお答えしています。



出演：尾木直樹（教育評論家）、前川喜平（元文部科学省事務次官）、本間真二郎（自然派医師）、
西郷孝彦、原口真一、國分一哉、住田昌治、宮崎倉太郎、福田弘彦（公立学校 元校長）

プロデューサー・監督・撮影・編集：オオタヴィン

ナレーション：小泉今日子 エンディングテーマ：RC サクセッション『すべてはALRIGHT』

制作：まほろばスタジオ 録音・整音：音響ハウス

2023 年/ 日本/ 16:9 /カラー/82 分/

オオタヴィン監督メッセージ

”子どもファーストを貫いた 夢みる校長たち” がいることをこの映画で知ってほしいのです。

「先生」くらい素敵な職業はない、って僕は思います。

全国の校長先生、保護者のみなさん、もっと、夢みてください。そして”学校の常識”を変えてください！